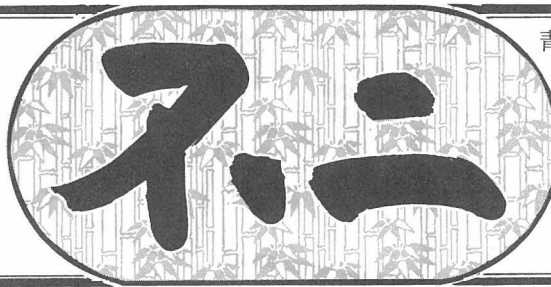


青年僧よ 立ちあがれ、歩め!!

発行所  
臨濟宗青年僧の会  
発行人 藤原東演  
〒420 静岡市御幸町11の4  
TEL 0542-51-1312  
〒振替 横浜 2-16960



主な記事

- \* 毒語 小池心叟老師
- \* 会のもち方II
- \* この人の道
- \* 法事法話
- \* 現代への提言
- \* 生き生き寺院

禅僧の本分

近代文明の中で

現代人の驚くべき頭脳もたらした、先端技術の進歩はすさまじい勢いで多角的に開発され、とどまる処を知らない。

われわれも、日常さまざまなものに触れ、その恩恵に浴しているが、われわれの心の本質、自然の道理を見極める内省面に於ては一向に進んでいないように思われる。現代人は機械産業の坩堝の中に於て人間の本質を見失いかけています。

機械文明の発達により、自らの手によって作り出された機械が闘争、戦争用具に悪用され、地球の破壊という奈落に追いつめられやがて到達せねばならぬ苦悩が徐々に目前に逼りつつある。

世界中いたる処で日々、戦争、革命、内乱、闘争を繰り返しているが、人間はどうして、これ程までに血腥い争いを好むのであろうか。人間の宿命とでもいうのであろうか。夫々与えられた国土に於て生活を豊かにし、繁栄を計り、平和な心の安らぎを求めようとしないのであろうか。宇宙、日月星辰、森羅萬象、悉く相對關係の上になりたつており、全て因縁所生（諸法は皆これ因縁より生ず）によって現象として存在している。われわれ人間は大部分、自我の凝りて占められている。銘々の知識も大自然から見れば小さなものに過ぎない。仏の教えは、われわれの小さな自我を否定し、大宇宙の法則の流れの中に引き入れ、大自然と共に運行し、大自然と共に起居する境界を体得せしめんがためである。

自我滅却のために

それでは、その自我を滅却し、宇宙觀に徹するためにはどうすればよいか、他に色々方法もあろうが、坐禅して無念、無想、無我の境地を实践体得するにしく



はない。過密化の一途を辿る都市の中に於て、自己の内省を計り、究明することは容易ではない。変化の激しい日進月歩の世の中において禅僧の面目を保つためには自らの向上を計り、社会の濁流に押し流され、世俗化しないことが肝要であると思う。近頃、沢山の禅書、修養書が刊行されているが、それ等の書物によって一応理解することも必要ではあるが、理解することと体験によって会得することとは別である。剣道、柔道、茶道、華道、囲碁、将棋、スポーツはもとより人事百般、なに一つとり上げて見ても同じことがいえる。先哲は夫々自己の信念にちとずいて技術のみがき、その心髓に到達し、其の道の先鞭をつけている。

禅僧の存在価値

われわれ禅僧も、自らの向上をはかり衆生済度の役目を果してこそ、禅僧とし

毒語

東京

白山道場

小池心叟老師

ての存在価値がある。世俗にたけても、真の禅僧とはいえない、上求菩提、下化衆生という大眼目に邁進するために、僧堂に於て培った基礎を生かし、夫々の自坊を開放し、坐禅指導に当って欲しいものである。如法に努力すれば供養は

「風吹けども動ぜず天辺の月、雪圧せども摧け難し礪底の松」という禅句の如く大地に根を張り、風雪に耐え忍ぶ禅僧を養成せざんば、禅の命脈は地を振うであらう。精金火に入って色転た鮮なり」でたよりになる人物は生れない。自己の確

立こそ重要な課題であると思われる。世事にたけた人間は世の中にウオウヨして泡影の如く露や電のようなものでなんの役にもたぬ、僧俗を問わずわれわれは自我のとりこになり、自我を押し通そうとする。学識があれば学識のとりことなり、名利を得れば名利のとりことなり、財物を得れば財物のとりことなり、自我の繫縛に陥る。対人關係に於ても、社会に於ても、國際關係に於ても、全て軋轢の起る原因はこの自我に外ならない。臨濟和尚の純一無雜となること、即ち自我を徹底的に排除するために禅の修行の意義があり、至難な面もある。

仏教三千年の脈々たる生命も、根本理念も、これを選れば無我に帰する。無我に徹すれば、動靜一如の宇宙觀が展開し大自然の運行と共に生き、遊戯三昧の人生觀が開けて来る。勉旃勉旃、